

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物

Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



秋田県大仙市
が応援するふるさと名物

『大曲の花火』

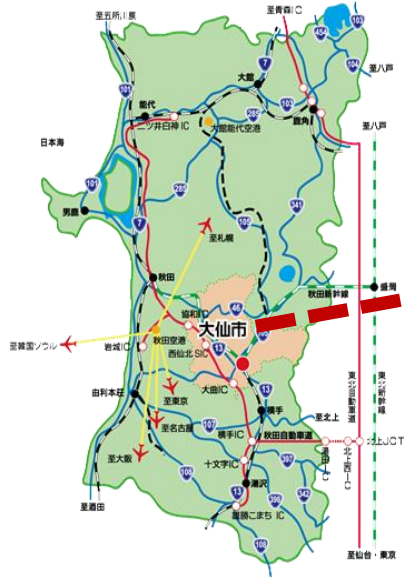
～日本最高峰の技術と伝統～

右上写真：全国花火競技大会「大曲の花火」大会提供

右下写真：「大曲村年中行事絵巻物」明治初期の作



地域の
プロフィール



◆全国に誇る大仙市の自慢
大曲の花火、国指定重要無形民俗文化財「刈和野の大綱引き」、国指定名勝「旧池田氏庭園」、全国500歳野球大会、真木真昼県立自然公園、ドンパン祭り、まほろば唐松「能楽殿」、全国屈指の米どころ、多くの酒蔵を有する酒どころ、味わい豊かな農産物（トマト、枝豆）、いぶりがっこの生産地、3つの民謡全国大会

人口：80,348人
面積：866.79km²
(R2.1月末住基)

市面積の4分の1を田園が占める **自然豊かな田園交流都市**

ふるさと名物の内容

1

主な地域資源

大曲の花火

全国花火競技大会

- 日本最高峰の花火大会
- 総合優勝者には内閣総理大臣賞が授与
- 一晩で約70万人の人出（R1：75万人）
- 毎年8月最終土曜日に開催

◆大仙市に花火が根付いた理由（諸説あり）

<説その1> 江戸時代、南方からの敵襲を藩都である久保田（現：秋田市）へ伝える「狼煙（のろし）」が発達し、花火となった。

<説その2> 秋田藩主佐竹氏が常陸から国替えとなって秋田へ向かう途中、雄物川の氾濫で足止めとなった。同行していた火術師が、地元の娘と恋に落ち、住み着いて花火の技術を伝えた。



旧大曲の地は古くから交通の要衝であり、雄物川を利用した物資運搬の川港として商業で栄えた。財力をもった商人達は、お抱えの花火師をもって支援。神社の祭典や冠婚葬祭で日常的に花火が打ち上げられた。

1910年（明治43年）、神社の祭典の余興「奥羽六県煙火共進会」として大曲の花火がスタート。以降、戦禍で一時中断したものの、100年以上にわたって続く。

2

ふるさと名物

●毎月花火が打ち上がるまち

「大曲の花火」以外にも、毎月様々な花火が地域ごとに打ち上がります

- ・ ニューイヤー花火(1/1)・太田の火まつり(2/1)・余目さくら花火鑑賞会(4/25)
- ・ 楯岡さなぶり酒花火(6/6)・花火通り商店街七夕花火(7/4)・協和七夕花火(7/4)
- ・ 秋田県立大曲支援学校七夕花火大会(7/10)・まつり彩夏せんぼく(8/15)
- ・ ふるさと西仙まつり(8/15)・ドンパン祭り(8/16)・神岡南外花火大会(9/14)
- ・ 四ツ屋まつり(10/11)・全日本残月花火選手権大会(11/3)
- ・ 大曲南部地区イルミネーション花火(12/19)

(2020年花火暦より)

●大曲の花火は夏だけじゃない！

「大曲の花火」は四季に合わせて年4回開催されています（平成28年～）

大曲の花火－冬の章－ (新作花火コレクション)	大曲の花火－春の章－ (世界の花火・日本の花火)	全国花火競技大会 大曲の花火	大曲の花火－秋の章－ (劇場型花火)
			
新進気鋭の若手花火作家による 新作限定の花火競技大会 (3/21)	桜の季節に合わせて開催。日本 の花火と世界の花火の競演 (5/9)	全国一の花火師を決める、国内 最高峰の花火競技大会 (8/29)	音楽と花火によるコラボレー ションの劇場型花火ショー (10/10)

大仙市の取り組み

1

独自の支援策

◆花火産業構想第Ⅰ期の概要

全国的に知られる「大曲の花火」のブランド力を活かし、製造業や観光、商業、農業、文化、教育など様々な分野にわたって経済効果を波及させ地域活性化を図るため、大曲商工会議所会頭が提唱され、大仙市、大曲商工会議所、大仙市商工会の3者で策定。期間は平成26～30年度の5箇年。4つの施策で構成される。

◆花火産業の定義

花火産業

=

大曲の花火
OMAGARI HANABI®

工業 × 観光 × 商業 × 農業 × 文化 × 教育
発信・PR

◆基本コンセプト

『日本の花火』の持続的发展と地域経済の活性化

◆基本方針

- 施策1 花火の文化的価値を高め、承継し、広く示す拠点づくり
- 施策2 花火を支える人材育成・研究開発の場の創出
- 施策3 日本屈指の花火製造・打上技術を基盤とする新たな花火生産拠点づくり
- 施策4 花火ブランドを活かした観光・商業・農業振興策の強化・拡充

大仙市の取り組み

◆これまでの取り組み

①花火伝統文化継承資料館整備事業

- 花火文化の発信を通じ地域活性化に資する「花火伝統文化継承資料館 はなび・アム」を整備
- 「花火のまち」として全国に散逸する花火関係資料を民間団体と協働で収集・保存
- 誘客の目玉として4K4面マルチスクリーン「はなびシアター」や世界的影絵作家・藤城清治氏の大作「大曲の花火」のレプリカを設置
- 花火大会以外でも立ち寄れる通年観光の拠点として運営中



②花火師育成事業／花火の共同研究・開発事業

- 平成27年6月、全国で唯一「煙火学」の専修課程を持つ足利工業大学（現:足利大学）と大曲の花火協同組合、大仙市が連携協定を締結
- 花火の色の研究や花火師資格取得講座など花火師の育成に繋がる様々な事業を実施



③花火工場運営会社設立事業／花火生産拠点整備事業

- 既存花火会社4社、県内3金融機関、ほか地元経済人が出資で新会社を設立。市は敷地造成・貸与、雇用助成、工場建設等で支援
- 「大曲の花火」ブランドを活かし、安全で高品質な小型花火玉を全国へ供給することを目指す。新規に16人を採用し、平成29年4月から製造開始



④「メイド・イン・大仙」の花火玉原料開発・普及事業

- 国内の花火玉は完成品だけではなく原料となる「炭」も大部分を輸入に依存
- 秋田県立大学と連携、花火の原材料となり得る県内農林資源を調査結果、アカマツの活用が有望と判明
- 大仙市にて花火用マツ炭を生産・製品化全国の花火会社へ販売する計画



大仙市の取り組み

⑤「大曲の花・美（はな・び）」開発事業

○花火を連想させるダリアの新品種を開発、ブランド化を進め販売

○開発を秋田国際ダリア園、増殖を農業協同組合に委託

○平成30年度までに10品種の開発が完了

○平成30年6月「花火ダリア」として商標登録

○現在、農業協同組合のダリア部会員にて栽培普及を推進

IV期生（平成30年度開発）



紫ながれ(むらさきながれ)



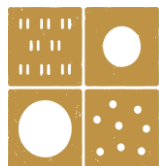
明変化(あかへんげ)

⑥「花火のまち・大仙」の「ひとくちお土産」開発事業

○〈せん〉は大仙市を意味すると同時に「非凡なもの、特別なもの」を表す

○米・大豆どころの大仙市の風土を活かした様々な商品が並ぶ様子を〈膳〉という言葉で表現

○ロゴマークは、お膳と田んぼの形をモチーフに「豊かな食を大仙市から発信する」というメッセージを込める



秋田・大仙
せんのぜん



⑦ 国際花火シンポジウム誘致推進事業

○各国の花火関係者(研究者、製造業者、プロモーター等)が一堂に会する国際会議（概ね2年に一度開催）

○第15回大会（フランス）に市長・商工会議所会頭が出席し誘致に向けたプレゼンテーションを実施、次回開催地に決定

○大仙市大会では、日本を含む38の国と地域から449名が参加

○期間中、花火イベント「大曲の花火－春の章－」を同時開催

○観光消費、主催者消費支出、雇用効果等で約14億5千万円の経済波及効果



論文発表



トレードショウ



大曲の花火－春の章－



活動する市民ボランティア

大仙市の取り組み

2

今後の取り組み



◆花火産業構想第Ⅱ期

施策1 花火の文化的価値を高め、承継し、広く示す 拠点づくり

- 1-1 花火伝統文化継承事業
- 1-2 「花火のまち」中心市街地環境整備事業 **New !**
- 1-3 花火イベント等情報発信事業

施策2 花火を支える人材育成・研究開発の場の創出

- 2-1 花火師育成・確保支援事業
- 2-2 「花火のしごと」魅力発信事業 **New !**
- 2-3 「メイドイン大仙」花火原料開発事業
- 2-4 花火学習プログラム展開事業

施策3 日本屈指の花火製造・打上技術を基盤とする 新たな花火生産拠点づくり

- 3-1 高品質凡用花火玉製造販売事業 **New !**
- 3-2 県内産花火用マツ炭販売普及事業 **New !**
- 3-3 国産無線点火システム販売普及事業 **New !**
- 3-4 花火イベント企画運営サポート事業
- 3-5 花火製造工程の自動化・省力化 **New !**

施策4 花火ブランドを活かした観光・商業・農業 振興策の強化・拡充

- 4-1 国際花火観光都市交流推進事業 **New !**
- 4-2 国際花火競技大会開催事業 **New !**
- 4-3 四季の「大曲の花火」開催・販売促進事業 **New !**
- 4-4 “あなただけの花火”打上事業 **New !**
- 4-5 花火大会におけるイベント民泊の推進 **New !**
- 4-6 お土産商品ブランド「せんのぜん」展開事業
- 4-7 「大曲の花・美（はな・び）」ダリア販売普及事業
- 4-8 「花火のまちのまるごとスタンプラリー」開催事業
- 4-9 地域の花火大会等応援事業



大仙市長からのメッセージ

「大曲の花火」は、日本最高峰の花火大会であり、県内外に経済波及効果をもたらす一大イベントであります。

令和2年は「大曲の花火」誕生から110年にあたる年であり、この間、多くの皆様に支えられながら発展してまいりました。

本市の地方創生の柱のひとつであり、関係団体と連携して取り組んでいる「大仙市花火産業構想」では、令和2年度から「大曲の花火」の海外展開に繋がる事業を本格的にスタートする予定としており、この度の応援宣言は、その海外展開に向けたアクションのひとつとしても位置づけております。

この応援宣言を契機に、「大曲の花火」が本市の「ふるさと名物」として国内外に一層認知され、世界的なブランドに大きく成長するとともに、地域経済活性化の原動力になることを期待するものであります。

秋田県大仙市は、市民、事業者、関係団体、全国の花火ファンと一体となり「大曲の花火」を全力で応援していくことを、ここに宣言いたします。



大仙市長 老松博行